

2025

9

ナイル

現代短歌ナイル

湯河原大会報告

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【15】

涼さんぽ／橋本涼

私のセレクト【7月号より】



NILE CAMPUS

315

伯梅閑話 — おもてけん —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

高砂屋福助丈のご子息は大手ホテルに勤めていると聞いた。親戚間のあれこれの末に、後継ぎがいなければ絶えることになっていた福助の名は、成駒屋福助の名が残り、高砂屋福助の名は絶えることになった。高砂屋福助丈は、三代目中村梅玉の養子。梅玉の名は大きい名前なので継ぎたいとおっしゃる方があると聞いていた。いきさつはどうあれ、親戚に渡したくないから親戚でない方に梅玉の名を渡すというのはいかがなものかと思った。いきさつを知ればこそ、高砂屋のおばさまに、そんなことを言う方はないかもしれないと、「梅玉は、ご親戚に」と言った覚えがある。高砂屋のおばさまがそれを覚えていらつしやったかどうかはわからないが、高砂屋の笑子（えみこ）夫人の承諾を得て、成駒屋の養子である方に梅玉の名を渡すことになった。よそながら、ほっとしたものだ。

別府で入院中の高砂屋福助丈のお見舞いに行つたのは、昭和四十三年の夏休みのことだったと思う。それは、大分の先輩の家に先輩の彼女だった友人を残して、京都に行き、また大分に引き返したときだからだ。大学の二年生のとき、表千家学生茶道研究会にかかわることになって、他の大学の友人知人を得た。その表千家学生茶道研究会の仲間との旅行に参加して、お茶室を見学したのだった。表千家学生茶道研究会、略して表研（おもてけん）。今も続く一番長い友人はそのころの仲間だ。おもてけんには、神田駿河台下の和菓子屋、茶会の和菓子を作る「さゝま」の息子さんがメンバーで、「さゝま」の松葉最中を持ってきてくださったものだ。いつの間にか、甘いものの好きの弟が、「さゝま」の客になっていて、時々、羊羹や松葉最中などを買ってきてくれている。

おもてけんの役員になった私たち学生と若宗匠（而妙斎・じみようさい）との懇談の機会があり、若宗匠の結婚について週刊誌に載るいきさつを若宗匠からお聞きした。他の宗匠が取材を受けたのだが、直接、若宗匠に取材したという記事になったとか。